

# 学習のための 国語辞典を目指して — 第四版改訂作業から

【三省堂例解小学国語辞典】編集委員 近藤 章

## 今回の辞書



三省堂 例解小学国語辞典 第四版  
三省堂 / 2008年

小学生用の国語辞典は、大人のそれと違って、学習辞典の色合いが濃い。国語科に限らず、子供たちの学習全般を想定して、それに応え得ることをねらっている。語彙選定から語釈のしかた、各種コラムや付録部分に至るまで、長年の蓄積に基づいた工夫が凝らしてある。

今回の改訂作業のうち、語彙選択について先に述べた。ここではそれを受けて、改訂の実際を二、三補足したい。

### 一 新語の語釈はこんなふう

改訂によって追加する語の多くは、いわゆる百科語彙である。こういう語の語釈は、小学生用だけにいっそう、どんな情報をどこまで詳しく書くかに頭を悩ます。

たとえば「道の駅」。最近よく見受けるこの語を、小学生に向けて平易に、しかも簡潔に説明したい。

この語を採録しているのは、管見では大人用の「三省堂国語辞典」「大辞林」「広辞苑」の三種。しかし、社会科や総合の時間を想定すれば、小学生にとっても目に触れる新語句の一つだと考えて採録した。

試みに国交省道路局HPに当たると、「道の駅」は次のようなものだという。

① 一般道路に設置。(高速道路ではない)

② 休憩機能、それに加えて、道路利用者や地

域のための情報発信機能、地域作りのための地域の連携機能を持つもの。

③ 設置者は、市町村またはそれに代わる公的団体。

これを、次のように書いた

みちのえき(道の駅) (名) 幹線道路に設けられた休憩施設。その地域の特産物売り場などもある。

まず第一義的には「道路にある休憩施設」である。「休憩所」のほうが子供にはなじみがあるが、規模から言って実態を言い当てているとは思えない。やはり「休憩施設」とすべきであろう。

ただし、「サービスエリア」と同義ではない。SAは高速道路にあり、こちらは一般道路にあるという。この差異を表す必要がある。とは言えそのまま「一般道路にある」では、市井一般の道路と解するかも知れない。それを避けるために、「幹線道路に設けられた」とした。「幹線」は「鉄道・道路などの中心となる線」として、すでに別に立項してあるので、ここではそのまま使うことにした。

さらに、休憩機能以外の機能にも触れておかないと、十分な語釈とは言えない。それには、子供たちが具体的に触れ得る、しかも典型的な姿を示せばよいのではないか。そこで、「特産物を売る店」をつけ加えた。

③の設置者云々は、子供たちにとってさほど重要な情報とも思われなないので、触れないことにした。

右の語積が、こうしてできあがった。

## 二 読み誤りも見出し語に

国語辞典では当然のことながら、その語が読めることを前提としている。読み誤ったままでは、その語にたどり着けない。これは、利用者である子供には不親切である。そこで、読み誤りが起こりがちな語については、誤りの読みもそのまま立項して、利用の便を図った。

**びいき【再起】**(名・動→する) 病氣や失敗など、悪い状態から立ち直ること。  
**びいき【最期】**「さいき」と読むのはまちがいで、正しい読みは「さいご」。  
**びいきよ【再挙】**(名・動→する) 失敗したものを改めて再びやること。

改訂に当たって取捨選択を施したが、「がい(外科)」「きじゅう(貴重)」「けんりつ(建立)」など、誤りを想定して採録してある。これは、私たちの辞書だけの工夫ではないかと思う。

## 三 学習に生きるコラム欄を

どの辞書にもコラム欄がある。子ども用の辞典にも、親しみやすいイラストをあしらった

たりして、いくつも掲載されている。しかし、「学習のため」と考えた時私たちは、ありきたりの読み物だけでは、今一步飽き足りない思いに駆られた。もっと国語科の学習に、生きて役立つコラム欄にできないものか。

そのために、新学習指導要領の実施など、国語教育の動向を見据えて追加・訂正をし、採り上げた話題が八十六。たとえば  
**起承転結・句読点・5W1H・視点・地の文・主題・体言止め・段落・ディベート・ト書き・場面・比喩・描写・見出し・要旨・話題**など。

さらに、段抜きや一ページ枠で十二。  
**擬態語と擬声語・敬語・語源・言葉遊び・ことわざ・四字熟語**など、となった。

これらの語の語積は従来どおりに示すとしても、それだけでは書き方が概念的で、子供たちには分かりづらいにちがいない。そこで、コラム欄を付けて、読むだけで分かるところまで、具体的に解説することにした。

そのために、読み物・童謡や教科書教材を例に取ったり、分かりやすく内容を整理したりして、結果としてひとまず、期するところ添ったコラム欄ができたと思っている。

拾い出せばさながら、国語科学習用語集である。近年小学校でも、学習用語をそのまま授業で使っているようであるが、そんなとき

左に「主題」についてのコラム欄を掲げておく。

**例「主題」について**


「大きなかぶ」の話を、短く書いてみよう。

「おじいさんが育てたかぶが、大きすぎてぬけない。おばあさん、むすめ、犬、ねこ、ねずみが加わって、かけ声をそろえてぬいたら、やっとなげた。」

このようにあら筋をとらえると、作品のもっともだいたいなことが、中心になることが、つまり「主題」がわかる。それは「みんなていっしょになつてやっとなげた」ことである。

また、手助けにくる者が「犬↓ねこ↓ねずみ」というように、だんだん小さくなっていくところに目をつけると、「小さな者までもいっしょに力を合わせたので、ぬけた」となる。

さらに、ねこと敵どうしのはずのねずみまでが、いっしょに引っぱった。そこに目をつければ、「だれもが一心」とつけ加えることもできる。



**こんどう あきら** 一九三三年、名古屋生まれ。小中学校・市教委を経て、名古屋芸術大教授で退職。同大名誉教授。第一版から当該国語辞典編集委員。